令和6年度　学校だより4月号から

令和６年度をむかえて

寒暖の差が激しい日が続いていましたが、ようやく穏やかな季節になってまいりました。新１年生が８日に入学し、子どもたちはそれぞれ学年を進級して、いよいよ令和６年度がスタートします。

昨年度から朝会などで、子どもたちには「節目」という言葉についてお話ししてきました。ご存じのように竹にある「節」のあるところ、という「節目」から転じて「物事の区切り」という意味の言葉としても知られています。

竹にある「節」は、一般的な樹木ほど太い幹がなく、それでいてきわめて高く成長する竹の強度を保つために存在していると言われています。また、節と節の間隔を調べると根元は狭く、上に行くにつれて広くなっていき、さらに先の方はまた間隔が狭くなっていくそうです。間隔が狭いのは強度を増すためで、根元は竹全体を支えるため、先の方は枝葉を支えるため、としっかり理由がありました。また、節の間隔が一定でないのは、それだと丈夫になりすぎて、強風などで横から大きな力が加わると折れてしまうからです。（近畿大学農学部のサイトより引用）

先ほど申し上げた通り、子どもたちには修了式などで、「大きく成長するためには、節目を大切にしましょう」とお話をしてきました。大切にするとは、これまでを振り返り、次の目標をもつことです。

４月に始業式、３月に修了式というサイクルがあることも、学校の役割として大切だと考えています。この「節目」を作り、「儀式的行事」として改まった式をそれぞれ行うことで、子どもたちは前を向きやすくなります。仮にこれまでうまくいかないことがあっても、「ここからがんばるぞ」という気持ちを持つチャンスになるからです。

子どもたちに大切なキーワードは「未来」と「希望」です。後ろを振り返るのは、これから始まる「未来」にいかすためです。自分を責めるために後ろを振り返るのではなく、「節目」ごとに前を向いて歩きだす、そんな子どもたちの姿を見る時、私たちはこの上なくうれしくなります。

これは保護者の皆様、地域の皆様も同じように思ってくださると確信しています。子どもたちの「未来」につながる指導に心がけてまいりますので、どうぞ本校の学区教育にご理解ご協力をお願いいたします。

（校長　堀口　直明）